



炭鉱遺産の歴史と活用

市が炭鉱遺産を取得 活用検討への第一歩

協議会が発足 炭鉱遺産活用検討

協議会が発足

炭鉱遺産は、じごと・ひと・まち創生総合戦略の中で赤平市の歴史的象徴であり、貴重な地域資源として位置づけられています。国内でも貴重な遺産として有識者からも評価されています。

赤平市では歴史の継承と交流人口拡大のために、炭鉱遺産公園や炭鉱資料館の一体的な整備について検討することとし、7月4日(月)、有識者を含む赤平市炭鉱遺産活用検討協議会が発足しました。平成29年3月まで公園や資料館のあり方について協議し、基本構想をまとめます。

また、北海道などと連携しながら、道内初の「日本遺産」登録を目指していきたいと考えています。

市が立坑櫓などの 炭鉱遺産を取得

協議会発足に先立つて7月1日(金)、赤平市は住石マテリアルズ株式会社と譲渡契約及び貸借契約を交わし、旧住友赤平炭礦立坑櫓をはじめとする炭鉱遺産を無償で譲り受け、また、立坑周辺の土地を借り受けました。

住石マテリアルズ社で建物の

譲受物件
旧住友赤平炭礦立坑櫓・立坑
操車場・旧赤平事務所・旧坑口
浴場・旧自走枠工場及び部品
工場(炭鉱機械類などを含む)
借地

旧ラグビー場・旧坑口浴場・旧
立坑用地 合計約27万4千m²

住石マテリアルズ長崎代表取締役社長(写真右)と、建物無償譲渡契約などを締結



赤平市炭鉱遺産活用検討
協議会の第1回会議

災害発生時の協力体制

問合せ 防災対策係
☎ 32-2211

地域支え合い活動の支援者 「エリアサポーター78名」が誕生



7月5日(火) 滝川市役所にて
「中空知5市5町防災に関する
協定」を締結 (写真:上)

6月30日(木) 赤平市役所にて
「災害時における物資の緊急・
救援輸送等に関する協定」を
(写真:下)



6月28日(火) 受講を終えた皆さんに菊島市長(左から2人目)から修了証が手渡されました。



中空知5市5町の市町長が、防災に関する協定を締結しました。これによって、災害時に十分な応急対応がとれない場合、近隣の市町に応援を要請できるようになります(近隣市町も被災している場合は除きます)。食料、飲料水、医薬品などの提供や、緊急避難場所の提供、人的派遣に至るまで、中空知全体で幅広く協力し合うことになります。

平常時にも、地域防災計画などの資料交換や、訓練・研修の共同実施、備蓄状況の情報交換など、協力体制の強化を進めていきます。

また、赤平市は札幌地区トラック協会滝川支部と、災害時における物資の輸送に関する協定を結びました。災害時は救援物資の搬入など、様々な物の移動が行われます。公用車だけでは限界があるため、輸送のプロにご協力いただくこととなりました。大きな災害が起きて赤平市だけでは対応しきれることがあるとき、中空知の自治体・団体からの協力は大変心強いものです。市では今後も独自に、市民に対する防災・減災の準備を続け、他市町からの要請にもこたえられるよう、対応していきます。

3月17日から6月28日まで、計8回行われたエリアサポーター養成講座をすべて受講された78名に修了証が渡されました。今後、エリアサポーターは、地区それぞれで体操教室や茶話会など高齢者が集まる場を設け、サポート業務の周知と、つながりを持つためのきっかけづくりを行います。

将来的には、介護保険制度のサービスまでは至らない、ちょっとした生活支援をしていきたいと思っています。

問合せ 社会福祉協議会
☎ 32-1015

エリアサポーターは
この名札が目印です。

○ 平岸地区	○ 茂尻・百戸地区	○ 住友・市街地区	○ 昭和地区	○ 文京地区	○ 若木地区
12名	12名	13名	17名	14名	10名
12名	12名	13名	17名	14名	10名
12名	12名	13名	17名	14名	10名
12名	12名	13名	17名	14名	10名

(男性33名・女性45名)
※エリアサポーターの名前は、それぞれの地区に別途ご紹介します。